



帆引き船を使った帆引き網漁は、明治13年(1880)シラウオ漁を目的にかすみぐら市の折本良平氏によって考案され、ワカサギ漁の主役として昭和42年(1967)までの約100年間、霞ヶ浦漁業の花形として一世を風靡しました。また、折本良平氏が帆引き船を考案した当時は、サッパ船という舟が使用されておりましたが、サッパ船は安定していたものの、沖へ漕いでいくには波切りが悪いという欠点があり、海で使われていた波切りの良いチョキ(猪牙)船を元に、玉造の船大工 田上亀次郎氏が銚子に行き、チョキ船の製造を学びサッパ船の長所を取り入れ、霞ヶ浦で最初にミヨシ船を造りました。ミヨシ船の登場は漁獲量の増大をもたらし、以後霞ヶ浦漁船の主流となりました。

※乗船は伴走する見学船で帆引き船ではありません。